

大学入試制度等の改善・充実等を求めて！ 日高教本部による大学入試室要請を実施

9月16日、日高教は、文部科学省大学入試室要請を実施した。要請では、大学入学者選抜における推薦書の様式の統一化、奨学金による経済的負担の軽減に向けた施策、単位数が少ない科目における専門教科教員の派遣・遠隔授業、情報科教員の全校配置について、現場の状況を伝えながら要望を行った。日高教からは池内教文委員をはじめ各県教文部長及び日高教中執の合計13名が参加した。文科省からは、高等教育局大学振興課大学入試室室長補佐、総合教育政策局教育人材政策課改革推進係長、初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチーム情報教育振興第二係長、初等中等教育局教育課程課企画調査係ら4名が対応した。要請の概要は次のとおり。



4. 学校推薦型選抜及び総合型選抜については、以下のように対応されたい。

(4) 大学等から各学校に通知される学校推薦型選抜における指定校推薦書の様式については、生徒への伝達が確実に行なえることや教員の業務負担軽減を鑑み、厚労省で実施している高卒求人票のように全国統一した書式とされたい。

文科省：推薦書の様式については令和8年度の大学入学者選抜実施要項を今年6月に策定した。推薦書の様式のイメージ例を提示している。あくまでイメージ例なので、こちらに縛られるものではない。神奈川県私立大学では統一の様式を作っていることから、そちらを参考としてイメージ例を作成している。こちらの周知を図っていききたい。

日高教：昨年度、3学年担任兼学年主任を担当しており、推薦等に係る書類の作成、確認を行う際に、書式が各大学等で異なっているため、管理職からの確認など非常に手間がかかった。厚労省からは高卒の求人票については統一した書式が出されており、「ハンディ進路指導室」というソフトを用いれば、PDF化された求人票を全てデータ化して保存でき、進路指導課の負担軽減につながっている。現在、特に指定校推薦は一覧にして生徒に示すようにしているが、大学によって募集要項のどこに何が書いているのか、年度によって違うこともあり、確認作業に非常に時間がかかる状況である。大学入試等においても求人票と同様に、出願条件や募集人員等を掲載する統一の要項ができれば、現場での混乱もなく、生徒にとって必要な情報が見やすいものになると思われる。こういった現状を考慮していただきたい。

日高教：推薦書のイメージ例は確認をさせていただいた。生徒や教員が記入する推薦書や活動報告書の例はある。しかし、残念なことに指定校推薦などの募集要項が学校ごとに異なることでミスが起こり、生徒に不利益が生じる事例も聞いており、統一の様式があれば防げた事例もあると考える。このような状況を理解いただき、特に指定校推薦については募集人員、出願要件等が一目で分かる様式を作成していただきたい。

文科省：要望の趣旨についてよく理解することができた。今回のご説明を受けて、実態も含めて創造できる部分がある。この場から来年からそうしますとなかなか難しいところがあるため、まず入試室あるいはその担当部署の中で検討させていただきたい。他の選抜試験も複雑になってきているため、高校の先生方の負担軽減の観点からしっかりと検討したい。

7. 教育の機会均等を保障するため、以下の措置を講じられたい。

(4) 日本学生支援機構の奨学金について、修士課程修了者に限定せず、教職に就いた際は返済不要とする旧日本育英会の制度復活を講じられたい。

文科省：奨学金の返還支援については令和6年3月19日、中央教育審議会で議論のまとめが示された。令和6年5月9日に通知を発出している。具体的には優れた教師の人材確保の観点から、翌年度から採用される者に適用される。議論のまとめで示されているとおり、制度改正も伴う学部段階も含めた支援の充実について高等教育段階の就学支援の動向や各教育委員会での教師人材の状況を踏まえながら、引き続き検討が必要と考えている。ただし、優秀な人材確保するという観点から、基本的には中教審の議論を踏まえて大学院修了としたものである。

日高教：優れた人材の確保のために大学院修了者を対象にしているとのことであるが、我々の要望としては教職に就いた際は返済を不要とする返還免除制度の復活である。また、現在民間企業においても、JASSOの調査によると2024年10月時点で2,587社、朝日新聞の調査では約2,700社が奨学金の一部または全額を返還支援としている。民間企業は、本当に優秀な人材の確保定着のために重要な投資を始めている。民間企業の状況等を踏まえ、今後どのようにしていく予定なのか、考えがあればお聞かせ願いたい。

文科省：企業においても奨学金返済制度を導入しているところもあるとのことであるが、大学院へ進んだ学生が奨学金返済制度があるから自分の進路を変えたという人がどのくらいいるか、教師不足にどのくらい対応するかということは、我々としてもデータがあるわけではない。現状としては大学院修了者への奨学金返済制度が始まったばかりであるため、その効果を検証してまいりたい。

9. 大学入学共通テストについて、基礎的な学習の達成の程度を判定するという実施の趣旨に則り、出題内容や難易度、問題量が現在の高校生の達成程度が見られるよう正規分布の得点状況となるよう問題作成するとともに、以下の対応をされたい。

(4) 専門教科教員(情報や地学、公共など単位数の少ない科目)が不在の学校に対しては、積極的に外部人材の派遣を検討されたい。

文科省：外部人材派遣については、教育委員会等、大学、産業界との連携・協力体制の整備の推進に向けて、関連団体への協力要請や連携協力を通じた事業支援の要請などを行っているところである。情報科の指導体制に向けた支援については、優れた指導力を有する先生方による授業解説動画の作成、解説動画をもとにしたオンラインによる研修の配信、アーカイブ動画の配信など、文部科学省の高等学校情報科に関する特設ページへの授業実践事例の掲載、情報科の先生方への研修支援を実施している。引き続き高校における指導の充実に努めていきたい。

日高教：現在、情報、地学、公共などいわゆる単位数の少ない科目において専任教員が配置されていない学校が少なくない。特に中小規模の学校においては、教職員数も限られるため、例えば地歴の免許状しか持たない教員が公民の臨時免許状を取得して公民科目を教えているという事例は多く上がっている。教科ではなく科目の専門教員が不在の学校に対しては、非常勤講師として外部人材の派遣を積極的にご検討いただきたい。地域の専門人材や大学との連携等、柔軟な形での人材確保、加えて教育センターなどによるオンデマンド型の授業提供も非常に有効な支援策だと考える。また、専門教員による質の高い授業を映像教材として提供することで教員の負担軽減と生徒の学びの保障の両立が図れるのではないかと考える。教員の働き方改革の観点、そして生徒の学びの質の向上という両面から、外部人材の活用やオンデマンド型の授業の導入を、ぜひ前向きに検討をお願いしたい。

9. 大学入学共通テストについて、基礎的な学習の達成の程度を判定するという実施の趣旨に則り、出題内容や難易度、問題量が現在の高校生の達成程度が見られるよう正規分布の得点状況となるよう問題作成するとともに、以下の対応をされたい。

(5) 情報科教員が高校・中等教育学校へ全校配置となるよう、予算を確保されたい。

文科省：要望いただいているように、地域によって生徒数の減少、それに伴う教員の配置数の減少という状況がある。大学受験に必要な科目を全て開講することが困難である等、重要な課題を抱えている学校もある。科目によって様々な事情があると思うが、文部科学省としてはまず授業の支援という点においては、教材の作成や関係省庁と連携したコンテンツの提供、出前授業などを行っている。しかし、それだけでは全ての科目の指導をカバーするのは難しい現状であると承知している。外部人材の派遣についてご要望いただいたが、遠隔教育の活用などについても考えていく必要があると考えている。高等学校改革推進事業として実証を進めているところではあるが、外部人材を含め、ご指摘の課題については、一体的な取り組みを行っていく必要がある。本日いただいたご意見については担当課で共有させていただきたい。

日高教：教科「情報」については学習指導要領の着実な実施に向けて諸施策を策定していただき、また情報を専門とする人材の計画的な採用に向けて努力していただいていることに対し、大変感謝している。大学入試という観点で見ると、現状として専門の先生に指導を受けられる生徒ばかりではなく依然として課題が残っている。昨年度の大学入学共通テストの教科「情報」の受験者数を調べると、全国で約280,000人の生徒が受験しており、各都道府県においては数千人が教科「情報」を受験している状況である。教科「情報」を試験区分とする教諭採用が全国的に進められているものの、これまでの採用数は大学進学を希望する学校にすべて配置できていない状況であり、数学や理科など情報を専門としない教員が情報の指導を担っているケースが未だ見受けられる。大学入試に向けた指導に携わられている先生方には専門外の教科指導というプレッシャーがかかっている状況である。引き続き計画的に教科「情報」が採用され各校に適切に配置できるよう努力いただきたい。また、数学や理科を専門とする教員が教科「情報」の指導を担当する場合、必然的に数学や理科を教える機会が少なくなり、教員の専門性を十分に発揮できない状況が生じている。このように教科「情報」をめぐる課題は依然として山積しており、引き続きの計画的な採用、そして定数の改善をお願いしたい。

